

<事業所> 放課後等デイサービス自己評価表

放課後等デイサービス  
神山さつきの森

2020.2.28

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	改善目標・工夫している点など
環境・ 体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか		○		支援の個別化を図るため、個別スペースを作り対応しています。今後、より落ち着いて過ごしたい子供たちのために個室を作ることを検討していきます。
	2 職員の配置数は適切であるか		○		基準を上回る職員を配置していますが、障害程度が重度の方が多い為、十分な体制とはいえません。今後、改善していきます。
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか		○		車椅子での移動が可能のように最低限の配慮はできていますが、施設内が手狭なため、車いすが移動可能とはいえません。今後バリアフリーが必要な児童生徒がいた場合には改善していきます。
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	○			事業所が目指す「地域の中で共に生きる」ことができる人になるように常に念頭におき、日々の支援について毎日の振り返りを行い、定期的なミーティングのなかで検討を行うなどしています。
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○			2020年2月に保護者にアンケート調査を実施し、ほぼ全ての方から回答を頂き、それを踏まえて事業者評価を行いました。
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○			今回の自己評価についてHPIに掲載します。また、保護者に対してはお便りでお伝えします。
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか			○	これまで第三者評価を受けたことはありません。今後、外部評価の導入について検討しています。
8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○			アドバイザーを含めた毎月のケース検討が実践的な研修の場になっています。県や市及び関係団体が主催する研修には職員を参加させると共に、先進的な事業所や近隣の事業所を見学し、支援の質の向上を図っています。	
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	○			相談支援事業所とも連携して個別支援計画を作成しています。子どもの成長や状況の変化に伴い変化するニーズを的確に把握できるよう工夫していきます。
	10 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか			○	標準化されたアセスメントツールは使用していませんが、アセスメントが支援の基本であることを意識し、日々支援をしています。
	11 活動プログラムの立案をチームで行っているか		○		年間計画に基づき、前月会議で予定を具体化し、その後プログラムを支援担当で立案し共有しています。
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○			毎日行う個別課題は、習得に合わせて変化させています。農作業体験、創作活動では季節的な要素も取り込み、様々な体験ができるように工夫しています。
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	○			休日や長期休暇は支援時間を長く確保できるため、公共施設、商業施設の利用などでの体験活動を行っています。また、個人の興味に合わせて公園や踏切に歩いていく、掃除や洗濯たたみなどのお手伝いができるように支援しています。
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ合わせて放課後等デイサービス計画を作成しているか			○	興味関心に応じて個別活動を行うと共に、全体活動では子ども同士の交流が図れるように計画しています。実際は、人と一緒に活動できる利用児童生徒は少ないので、今後さらに工夫をし、改善に努めます。
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○			毎朝、打合せを行い、前日までの情報の共有と、当日の支援内容の確認、役割分担を行っています。
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか			○	打合せは行っているが、支援の振り返りが十分できない時があります。今後、短い時間でも時間を確保し、振り返りを行えるように改善していきます。
17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○			利用日ごとに支援内容と児童の状況を用紙に記録するとともに、月に1回のミーティングの中で検証・改善につなげています。	
18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	○			モニタリングの標準期間だけでなく、児童の状況の変化や保護者の意向なども踏まえて計画の見直しを行います。	
19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか	○			設定したプログラムの中では交流や創作的な活動を行い、生活場面では日常的な生活支援を行います。	
20 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか			○	現在は児童発達支援管理者責任者のみが参加していましたが、今後は基本的に、児童発達支援管理者責任者と支援担当者の複数で参画します。	

関係機関や保護者との連携	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか	○		特別支援学校の行事予定をメールでいただき、学校へのお迎え時に先生から状況を聞く、連絡会への参加、電話での情報確認などをおこなっています。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか	○		医療的なケアを必要とする児童の利用はありませんが、発作があるなど医療的な配慮が必要な児童については保護者と連絡方法や対応方法を確認しています。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか		○	これまでそのような機会はありませんが、必要に応じて保護者の意向も確認して取り組んでいきます。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか		○	今後、必要に応じて保護者の了解も得て対応していきます。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	○		必要に応じ、専門機関の助言を受けています。これらの機関が行う研修には今後参加していきます。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか		○	今後、必要に応じて検討改善していきます。
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか	○		御殿場・小山自立支援協議会こども部会の事業所連絡会に参加し、情報共有や支援の向上に向けた話し合いに参加しています。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○		お子さんの日々の様子は連絡ノートを活用すると共に送迎の際にも口頭で伝えていきます。課題や問題については個別に面談するなどして対応しています。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	○		支援の中で気づいたことを保護者と共有したり、保護者の困りごとに具体的なアドバイスを行って、家庭で実践できることをたくさんお伝えするようにしています。
保護者への説明責任	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○		運営規定の変更があった場合には、保護者向けにお手紙を配布しています。支援内容については毎月の通信や広報誌でお伝えしています。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○		保護者からの相談は個別に面談時間を設定するなどして相談に応じていきます。29の回答の通り。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか		○	今後、日ごろの悩みや高校卒業後の進路・生活など、保護者が思いを共有し、情報が得られ、悩みが解消されるような横のつながりができる場所を作っていくよう努めます。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○		保護者からの苦情や要望がしやくすくするために広報活動や意見箱を設置するなどしています。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか		○	保護者向け通信を毎月発行しています。今後、次月の行事予定、活動予定なども周知するようにしていきます。
	35	個人情報に十分注意しているか	○		個人情報保護については、書類管理を徹底してその保持に努めています。
	36	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○		情報は具体的、視覚的に伝えることを意識しています。今後もより一層意思疎通がはかれるよう、改善努力していきます。
非常時等の対応	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか		○	同一敷地内にある 入所施設さつき学園の「さつきまつり」に地域の方に参加していただくことで、事業内容を知っていただく機会となっています。
	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか		○	職員間では周知しているが、保護者への周知が十分とはいえません。今後明文化してものを保護者に配布して周知を図ります。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか		○	今後、月1回の防災訓練を実施していきます。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○		県の虐待防止研修に職員が参加して伝達研修を行うなどして対応しています。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか		○	必要性がある生徒がいた為、保護者の同意を得たうえで一時的に身体拘束を行ったが、現在は行っていません。今後必要性がある児童生徒が利用する場合には、相談支援事業所とも連携し、保護者とも十分に相談して合意のうえで行います。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	○		現在、該当する児童はいませんが、把握できた場合には保護者を通じて情報を得て適切に対応します。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○		ヒヤリハットについて把握し事故防止につとめています。